

認知症について理解を深めるイベントを開催します ～認知症になっても自分らしく暮らせるまちへ～

「市民の誰一人取り残さない」まちづくりは、見附市が第6次総合計画に掲げる理念の一つです。認知症の人を見守り、支え合い、認知症になっても自分らしく暮らせる地域づくりを進めるため、市では、毎年さまざまな啓発活動を実施しています。

今年度は、10月15日に認知症について学ぶフォーラムを、10月18日に認知症行方不明者の搜索模擬訓練を行いますので、お知らせします。

1. 認知症フォーラム in みつけ

2024年（令和6年）12月に策定された国の認知症施策基本計画において、「誰もが認知症になりうることを前提に、国民一人ひとりが認知症を自分ごととしてとらえ、住み慣れた地域で仲間とともに自分らしく暮らしていく」ことの推進が示されました。一方で、認知症を疑う症状があっても、認知症に対する否定的なイメージなどから、早期の受診につながりにくい現状もあります。今年は、認知症をもっと身近に感じ、気軽に相談や受診ができるよう、日頃から認知症患者を診察されている医師の立場から、認知症についてご講演いただきます。

（1）開催日時 令和8年10月15日（木） 午後1時30分～午後3時30分

（2）会 場 見附市文化ホールアルカディア 小ホール（見附市昭和町2丁目1-1）

（3）定 員 250名（先着順）要申込



（4）申し込み ① 2次元コードから申し込み →
② お近くの地域包括支援センターまたは健康福祉課へ電話で申し込み
（連絡先等詳しくはチラシ参照）

（5）プログラム

第1部：講演

「認知症を知り、共に生きる時代に大切なこと」

講師：新潟大学医歯学総合病院 脳神経内科 石黒 敬信 先生
（見附市立病院 神経内科 非常勤医師）

第2部：トークセッション

テーマ「認知症の方の思いや暮らしを知る

～地域で暮らす認知症の本人・家族へのインタビューより～

登壇者：見附市地域包括支援センター職員

講評：新潟大学医歯学総合病院 脳神経内科 石黒 敬信 先生
（見附市立病院 神経内科 非常勤医師）

2. 認知症行方不明者の搜索模擬訓練（見附第二小学校区）

認知症高齢者が行方不明になったことを想定した搜索訓練を地域ごとに実施しており、今年度は見附第二小学校区で実施します。

今回は、実際に行方不明者が発生した際の「初期対応」に重点を置き、「どこに、どのように、どんなことを伝えるのか」の流れを、寸劇をとおして学びます。

認知症の方を支える地域の皆さんが、見守りの大切さや発見時の対応などを確認することで、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりにつなげます。

（1）実施日時 令和8年10月18日（日） 午前10時～12時

（2）会場 見附市立見附第二小学校（見附市杉澤町 3561）
※ 熊の出没の危険があることから見附第二小学校体育館で実施予定

（3）参加者 杉澤町町内会役員、自主防災組織、堀溝町町内会役員、保健委員、民生委員、第二小区やすらぎの郷(まち)コミュニティ、見附警察、見附市消防職員 等

（4）主な内容

- ・ 寸劇 認知症の方が行方不明になった際に、どこに、どのように連絡し、助けを求めるとよいか、実際の動きに近い形で見てもらいます。
- ・ 声かけ体験 「何か様子がおかしい。困っている人かしら」
認知症役の方に声かけする訓練を通じて、対応のポイントを学びます。
- ・ 振り返り 体験を通じて学んだことなどを話し合い、警察、消防から講評をもらいます。